

8 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

二 あとの問一～問七に答えなさい。

問一 次のア～オの読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

ア 九成宮醴泉銘 イ 落款 ウ 虞世南 エ 羅紋硯 オ 米芾

問二 次のア～オの語をそれぞれ漢字で書きなさい。

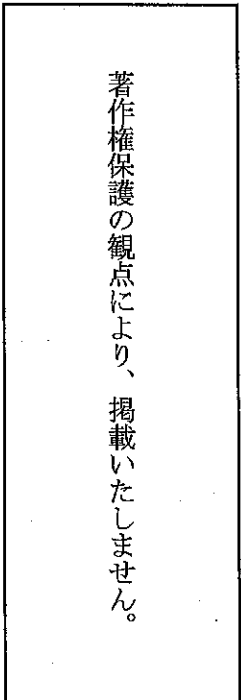
ア たんざく イ おりじょう ウ かんすぼん
エ いとないしんのうがんもん オ でつちようぼんわかんろうえいしゅう

問三 次のア～オは、書道に関連のある語です。それぞれの説明を簡潔に書きなさい。

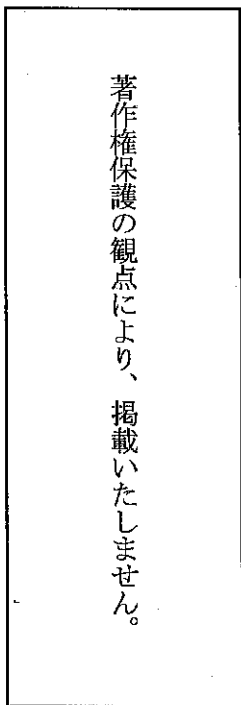
ア 露鋒 イ 摩崖 ウ 双鉤填墨 エ 連綿 オ 懸腕法

問四 次の図版①・図版②は、「真草千字文」の一部です。書かれている文字を、それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

図版 ①



図版 ②



問五 「雁塔聖教序」について、あとのア～エに答えなさい。

ア 「雁塔聖教序」は、二つの碑文を合わせた呼称です。この二つの碑文の名称をそれぞれ漢字で書きなさい。
イ 「雁塔聖教序」に「般若心経」を加え、僧の懷仁が王羲之の真跡から集字した書跡を何といいますか。書きなさい。

8 高等学校 芸術科（書道） 問題用紙

（五枚のうち二）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

ウ 次の図版①は「雁塔聖教序」の一部です。また、あとの図版②～⑤は、図版①の一部を拡大したものです。図版②～⑤について、それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

エ 「雁塔聖教序」の用筆・運筆の特徴を簡潔に書きなさい。

問六 次の図版①・図版②について、あとのア～オに答えなさい。

図版①

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

図版②

8 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

ア 次の文章は、図版①の概要について述べたものです。文章中の a c に当てはまる語をそれぞれ漢字で書きなさい。

この書跡は、佐久間将監実勝(直勝、真勝ともいう。)が京都の大徳寺境内に造った茶室 a に愛蔵したことが名称の由来となっている。また、この和歌は、b の四季の部に属する。この書跡は枳形の唐紙に、書き出しの位置や行の長さ、行間などに変化をつける c の形式(行の構成法)で書かれている。

イ 図版①の筆者と伝えられている人物名を書きなさい。

ウ 図版①は三色紙の一つです。三色紙といわれるあと二つの書跡名をそれぞれ書きなさい。

エ 図版②は、図版①の一部を拡大したものです。ここで示されている七つの文字の字源をそれぞれ楷書で書きなさい。

オ 図版①の和歌の大意を書きなさい。

問七 次のア・イに答えなさい。

ア 次の文は、清の包世臣の「芸舟双楫」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。
習法易而創體難。

イ 次の文は、明の謝肇淛の「五雜俎」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。
墨太陳則膠氣盡而字不發光、太新則膠氣重而筆多纏滯、惟三五十年後、最宜合用。

二 次の問一・問二に答えなさい。

問一 「書道Ⅰ」の授業において、表現の指導に当たって、篆刻を扱った授業を行うこととします。その際、表現の指導の質を高めることをねらいとし、デジタル機器を効果的に生徒に活用させることとします。どのような学習活動が考えられますか。デジタル機器を活用させる目的と場面、デジタル機器の活用法を含め、具体的に三つ書きなさい。

問二 生徒に模範例として示す印稿を作成することとします。語は「賢子」とし、朱文で作成します。次の図版を参考にして草稿を枠内に鉛筆で書きなさい。また、作成する際の留意点を具体的に三つ書きなさい。

図版

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

8 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち四)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

【三】 次の表1・表2は、平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道Ⅰ の目標と内容構成等との関連の一部を示したものです。表1・表2を踏まえて、「書道Ⅰ」の「漢字の書」の授業において、あとの図版を用いて、全四次、八時間の単元を構想することとします。どのような単元目標、配当時間、学習活動及び指導上の留意点を設定しますか。それぞれ書きなさい。なお、学習活動において使用する用紙は、半紙及び半切二分の一の大きさとしします。

表 1

領域	項目	事項	目標との関連
A 表現	(2) 漢字の書	ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。	「思考力、判断力、表現力等」
		イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。	「知識」
		ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。	「技能」
		(ア) 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成	
		(イ) 意図に基づいた表現	
		(ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり	
		(イ) 書体や書風と用筆・運筆との関わり	
		(ア) 古典に基づく基本的な用筆・運筆	
		(イ) 古典の線質、字形や構成を生かした表現	

表 2

領域	項目	事項	目標との関連
B 鑑賞	(1) 鑑賞	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書の上さや美しさを味わって捉えること。	「思考力、判断力、表現力等」
		イ 次の(ア)から(エ)までについて理解すること。	
		(ア) 作品の価値とその根拠	「知識」
		(イ) 生活や社会における書の効用	
		(ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり	
		(イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化	
		(ウ) 漢字の書体の変遷、仮名の成立等	
		(エ) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態	

図版

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

8 高等学校 芸術科（書道） 問題用紙

（五枚のうち五）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

（答えは、全て解答用紙に記入すること。）

四 平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道Ⅰ及び書道Ⅱについて、次の問一・問二に答えなさい。

問一 書道Ⅰ 目標 には、次の資料のように示されています。傍線部について、どのようなことを意識した活動が求められていますか。簡潔に書きなさい。

資料

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

問二 書道Ⅱ B 鑑賞 (1)鑑賞 ア には、次の表のように示されています。傍線部について、どのようなことに留意して指導する必要がありますか。簡潔に書きなさい。

表

	B 鑑賞
	(1) 鑑賞
ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えること。	
(ア) 作品の価値とその根拠	(イ) 生活や社会における書の美の効用と現代的意義

8

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち二)

受験番号

氏名

問題番号												解答欄					
問五			問四	問三					問二		問一						
エ	イ	ア	①	オ	エ	ウ	イ	ア	エ	ア	エ		ア				
	ウ ②		②						オ	イ	オ		イ				
														ウ	ウ		
⑤																	

8

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち二)

受験番号

氏名

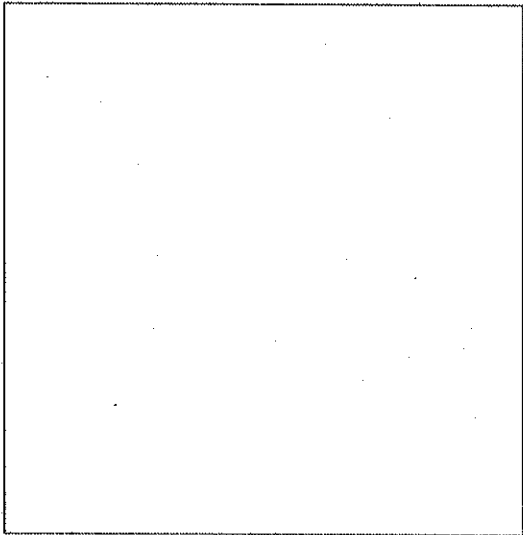
一							問題 番号	
問七		問六					解答 欄	
イ	ア	オ	エ	ウ	イ	ア		
						a		
						b		
			p					c

8

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号				解答欄		
問二			問一			
						

8

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち四)

受験番号

氏 名

問題
番号解 答
欄

三			
単元目標			
	配当時間	学習活動	指導上の留意点
第一次			
第二次			
第三次			
第四次			

8

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち五)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

四		問題番号
問二	問一	解答欄